

平成29年度
第15回 **全国環境連全国大会**

「自然との共生 ～豊かな水環境へ～」

2017.10.27 <Fri.>

ホテルニューオータニ博多

福岡市中央区渡辺通 1丁目 1番 2号

- 主催 / 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
- 後援 / 環境省・福岡県・福岡市長会
福岡県町村会
- 協賛 / 公益財団法人日本環境整備教育センター
一般社団法人全国浄化槽団体連合会
全国浄化槽推進市町村協議会
一般財団法人福岡県浄化槽協会
福岡県浄化槽推進協議会
- 担当 / 全国環境連九州地区協議会
(福岡県環境整備事業協同組合連合会)

第15回全国環境連全国大会の開催にあたって

本日、ここに第15回全国環境連全国大会を「アジアの玄関口」福岡で開催できますことを心から感謝申し上げます。また、環境省をはじめ、国会議員、県議会議員、市町村議会議員の先生方、福岡県並びに県下市町村等行政機関の皆様、更には、関係団体、関係業界の方々には、公務ご多忙の折ご臨席を賜りましたこと、厚くお礼を申し上げます。

今年7月、九州北部に観測史上最大の雨量をもたらした記録的豪雨は、数十年に一度の災害が差し迫った時に発表される最大級の「大雨特別警報」が福岡、大分両県に九州で初めて出されました。豪雨で河川が各地で氾濫、人も車も家も橋も押し流し、濁流が田畑や集落を丸ごと飲み込み福岡、大分両県の30以上の市町村に甚大な被害をもたらしました。

5年前の平成24年7月の九州北部豪雨では、福岡、大分、熊本で、多くの犠牲者や家屋、農地などに大きな被害が出たことを思い出し「またか」とのやりきれない思いが募りました。

近年、従来の常識や経験が通用しない災害が増加し、尊い命と財産を一瞬に奪い、悲しみのどん底に突き落とす、大変な試練を与えています。

私達は、日本という国に生活する上で、地震や台風、水害といった自然災害と共存して行かなければなりません。全国どの地域でも大きな自然災害が発生する可能性があります。これまでの災害に対する意識を根底から見直し、災害や事故で被害を受けた時に備え、平時から被害を最小限に抑えることや早期に復旧するプランを準備するなどの万全を期しておくことが肝心です。これまで全国環境連では、被災者や避難者の生活に伴い発生するし尿等の収集・運搬・処分を行い被災者や避難者の衛生・健康を守るために、資機材の提供や義援金などの支援活動を積極的に推進して参りました。これも会員各位の深いご理解と我々業界の社会的な責任の表れであります。

今大会のテーマは『自然との共生～豊かな水環境へ～』であります。

20世紀に急速な人口増加と資本主義社会の競争原理による利益優先経済となった結果、自然環境に大きな負担となり、地球温暖化による豪雨、巨大台風そして地震など自然災害は国内を問わず世界各地で発生し、経済や財政に大きな影響を及ぼしています。自然災害は、環境問題と密接に関係しており、水環境への負荷をどのように減らし無くするかによって人類共有財産であり命の源である水をいかに守るかが問われています。我々は水処理の専門業者として、今日の人口減少、高齢化社会に最適でかつ地域住民に健全で持続可能な水循環を確保するため、現在の厳しい経済情勢や国等の動向を踏まえながら、将来を見据えた思い切った意識改革に努めると共に、適正業務の遂行、経営基盤の安定、次世代を担う人材の育成など一丸となって取組んで行かなければならないと考えています。

本日のこの大会を機に、心新たに全国環境連設立当時の初志を忘れず、組合員一同更なる努力と英知と力を結集しながら飛躍を期する所存であります。

最後に大会開催にあたりご尽力頂きました皆様に深く感謝申し上げますと共に、ご臨席を賜りました多くの皆様方に心からの感謝と更なるご支援、ご指導をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会長 鳥越 澄夫

福岡県環境整備事業協同組合連合会

会長 安徳 博



祝 辞

環境整備議員連盟会長

衆議院議員 河村建夫

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の更なる発展への節目ともいえるべき第15回全国大会が「魏志倭人伝」で知られる倭の奴の国の港といわれる古い歴史と伝統の街・博多でこのように盛大に開催されますことをまず心よりお慶び申し上げますと共に、全国環境連の陣頭に立つ鳥越澄夫会長をはじめとする会員の皆様方が私共の暮らしに欠かせない、それでいてその扱いは万全の配慮を払わなくてはならない水問題に常々研鑽を積み、力を尽くされていることに深甚なる敬意を表します。

安倍政権は民主党から政権奪還を為し遂げて以来、アベノミクス（経済再生）を旗印にデフレからの脱却を目指し、世界が志すべき新たな成長軌道を創るべく、努力を重ねて参っております。そのために男女を問わず、お年よりも若者も障害や難病のある人も一度ならず失敗を体験した人もだれもが活躍できる1億総活躍社会づくりに取り組んでいます。その成果が着々とあがっていることは、日銀調査による大企業製造業の景況感を示す業況判断指数が連続で改善し、高水準となっていることから明らかです。非製造業でも同様の傾向がうかがえます。第2次安倍政権と同時に始まったアベノミクス景気は既にわが国の高度経済成長期を超える息の長さとなっているのです。ただ好況感がなお東京を中心とする大都市圏に片寄りがちで、大企業に偏在気味であることは否定できない現実です。

それを全国津々浦々にまで押し広げ、中小零細企業にまで好況の恩恵が及ぶようにすると共に、地球温暖化の影響があつてか、昨今、全世界で頻発する大規模な自然災害と真っ向から向き合い、国民の生命財産を守り抜く方策が「国土強靱化」です。わが自民党は既に立法化し、国民運動とするべく日夜努めておりますが、「国土強靱化」の前に立ちほだかる難題の水問題に真剣に対処し、その先頭に立って活発な活動を展開してくれているのが全国環境連の皆様方です。

水は人類にとって空気と同様に大切なものです。全国環境連の今大会のテーマは「自然との共生～豊かな水環境へ～」というまさに時宜を得た主題ですが、わが国では幸いにも厳しい渇水期に見舞われてもまず飲料水に事欠くことは皆無です。しかし、全世界では今なお6億人以上が安全な飲料水を飲むことができないのが現状です。豊かな水資源を活用し、水環境をよりよく整備するための技術開発に力を注ぎ、水文化を創り、広め、循環型共生社会づくりを使命とするわが日本の知見や経験を世界に広めていくべきです。

ご当地・福岡県では今夏、記録的豪雨により被災された皆様には改めて心よりお見舞い申し上げます。微力ながら復興に私自身、全身全霊をささげて参りますが、それと共に全国環境連の皆様と手を携え、水関連災害に打ち勝つ全国土の強靱化に取り組む決意です。発足以来、変わらぬ自民党地方創生実行統本部部長として、強靱な地方創りに邁進致します。



祝 辞

環境省 環境再生・資源循環局

次長 山本昌宏

本日、ここに全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第15回全国大会がかくも盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

貴連合会の皆様方が、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の清掃など、日頃より生活環境の保全、公衆衛生の向上のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表するとともに、廃棄物・リサイクル行政の推進に格段の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災の発生から6年が経過し、「復興・創生期間」も2年目を迎え、復興も新たなステージを迎えた中で、これまで廃棄物・リサイクル対策部、水・大気環境局及び放射性物質汚染対処技術統括官の3部局にまたがっていた放射性物質汚染対策に係る業務を一元化するとともに、既存の廃棄物・リサイクルに関する知見を最大限活用して被災地の環境再生を進めるため、今年7月に、新たに「環境再生・資源循環局」を設置いたしました。これにより、意思決定の迅速化を図るとともに、特定復興再生拠点区域の環境再生、中間貯蔵施設の整備、指定廃棄物の処理を地元の思いに寄り添いながら着実に進め、被災地の復興・創生を加速化してまいります。

昨年は、全国各地で水害や地震等が発生し、今年も7月に九州北部豪雨が発生し、災害廃棄物に対する事前の備えの重要性が改めて認識されました。環境省では、災害廃棄物に対する平時の備えを充実すべく、自治体による災害廃棄物処理計画の策定支援や、国、地方自治体、関係事業者等との連携協力の促進など、災害に強い廃棄物処理体制の構築に向けた取組を更に進めてまいります。

一般廃棄物の適正処理は、地域の生活環境保全・公衆衛生確保のために必要不可欠です。地域社会・暮らしを支えるため、一般廃棄物処理施設の早急かつ適切な更新を進めてまいります。

廃棄物分野における地球温暖化対策については、焼却時における廃棄物は、高効率発電によるエネルギー回収や余熱利用を更に進めることとしており、循環型社会形成推進交付金に加え、エネルギー対策特別会計等を活用しながら、地域の廃棄物エネルギーの徹底活用を推進いたします。

浄化槽については、これからの社会情勢に対応した最適な污水处理システムとして、その役割はますます大きくなっていくものと認識しています。このため、災害に強い特徴を活かした浄化槽の整備の推進と維持管理の徹底を図ることにより、污水处理の未普及解消を進めるとともに、環境配慮型浄化槽の普及により地球温暖化対策にも取り組み、地域の水環境保全や災害に強い低炭素なまちづくりに貢献してまいります。

最後に、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆様方におかれましても、引き続きの御支援、御協力をお願いするとともに、今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

福岡県知事 小川 洋

本日、第15回全国環境連全国大会が、このように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、全国各地から福岡県にお越しいただいた皆さまを心から歓迎いたします。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の皆さまにおかれましては、日ごろから、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理など、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に多大なるご貢献をいただき、誠にありがとうございます。

また、貴連合会会員であります福岡県環境整備事業協同組合連合会におかれましては、本年2月に、本県との間で、災害時の協力要請等について定めた「災害廃棄物の処理等の協力に関する協定」を締結いただきましたことに厚くお礼申し上げますとともに、このたびの「平成29年7月九州北部豪雨」におきまして、本協定に基づき、発災後、速やかに被災地のし尿処理をはじめ、多くのご支援・ご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

本県におきましても、被災地の皆さまが、一日も早く元の平穏な生活と元のお仕事に戻っていただけるよう、国および関係自治体と連携し、引き続き最大限の努力をしております。

さて、本県では、県民一人一人が福岡県に生まれて良かった、生活して良かったと実感できる「県民幸福度日本一」を目指し、平成25年3月に第3次福岡県環境総合基本計画「福岡県環境総合ビジョン」を策定しました。この計画では、環境と調和し成長する社会を未来へつなぐため、環境の視点から7つの柱を設定し、柱ごとの具体的な取り組みを進めているところです。

このうち、汚水処理に関しましては、持続的な汚水処理システムの構築を進めるため、平成29年3月に新たな「福岡県汚水処理構想～ふくおか水環境ビジョン～」を策定しました。

今後、本構想に基づき、汚水処理施設の早期整備を着実に推進してまいりたいと考えており、浄化槽に関しましては、今年度から、単独処理浄化槽や汲み取り便槽から合併処理浄化槽へ転換する場合に、本体・工事費に加え、単独処理浄化槽等の撤去費および配管費についても県費による助成を行い、より一層の転換を図ることとしております。

環境問題は、廃棄物の不適正処理や地域固有の生き物の減少など身近な問題から、越境大気汚染や地球温暖化など地球規模の問題まで多岐にわたっており、行政、県民、NPO、事業者などが一体となって取り組んでいくことが重要です。

本県としましても、貴連合会および会員の皆さまをはじめ、関係機関と協力して美しく豊かな自然を未来に継承していけるよう、全力で取り組んでまいりますので、今後も皆さま方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会のますますのご発展と、会員の皆さまのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

福岡県議会議長 樋口 明

第15回全国環境連全国大会が、本県で盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国からお集まりいただきました皆様を心から歓迎いたします。

また、本大会を主催されます全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会並びに各県の環境整備事業協同組合の皆様方には、日ごろから、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理を通じて、良質な水環境の保全及び公衆衛生の向上に御尽力されていることに対し、深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、本大会は、「自然との共生～豊かな水環境へ～」をテーマに、今日の人口減少、高齢化社会に最適かつ持続可能な水循環を確保することを目指すものであり、誠に意義深いものと考えます。

水は私たちにとって欠くことのできない大切な資源であり、きれいで豊かな水環境を次の世代に継承していくことは私たちの責務であります。

そのような中、貴連合会が力を入れておられます浄化槽は、下水道の処理水と同等の水質が得られ、また、短期間で設置できる施設として地域の水環境保全に貢献するものであり、その役割は大変重要であります。

また、これら浄化槽がその機能を十分に発揮するためには、皆様方が実施されておられます清掃や保守点検など、日々の適正な管理が不可欠であります。併せて、浄化槽の使用者がその機能について正しく理解することも大切な事であり、浄化槽に関する知識の普及啓発活動も含めて、良質な水環境を維持するために皆様が果たされる役割は非常に大きなものであると考えております。

福岡県議会といたしましても、県行政と一体となり、身近な水環境の改善とともに、生活環境の保全と公衆衛生の向上につきまして、鋭意取り組んでまいり所存でございます。

皆様方におかれましても、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、全国一般廃棄物環境整備共同組合連合会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、御祝いの言葉といたします。



祝 辞

福岡県浄化槽推進協議会会長

久留米市長 檜原利則

この度、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第15回全国大会が、「自然との共生～豊かな水環境へ～」をテーマに、本日盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、福岡県浄化槽推進協議会を代表致しまして、一言ご挨拶を申し上げます。

貴連合会会員の皆様方におかれましては、日頃より浄化槽の清掃及び一般廃棄物の適正処理等に取り組まれ、各自治体における生活環境の保全及び公衆衛生の向上に多大な貢献をしておりますことに、深く敬意を表す次第であります。

さて、当協議会が推進しております浄化槽は、汚水処理施設のひとつとして「公共下水道」、「農業集落排水処理」等とともに公共用水域の水質保全や健全な水循環の確保に大きな役割を担っております。また、浄化槽は「災害に強い汚水処理施設」、「生活排水をその場で処理し、身近な河川に返すことが可能で、かつ、短期間で比較的安価に設置できる」といった特徴を持っており、これからの社会情勢に対応した汚水処理施設として、その役割はますます大きくなるものと認識しております。

しかしながら、浄化槽がその性能を十分に発揮するには、整備に併せた適切な維持管理が不可欠であり、法定検査の受検率を高めるなど、その対策の徹底を図ることが汚水処理施設としての信頼を確保する上で、非常に重要なことであることは皆様ご承知のとおりでございます。

当協議会といたしましては、福岡県が平成29年3月に示されました「福岡県汚水処理構想」のなかで、県内の汚水処理人口普及率を平成37年度までに「95%」とする目標達成に向けて、今後県内自治体におきまして、汚水処理の早期普及を目的とした弾力的な浄化槽の整備がなされていくものと考えております。また、福岡県では目標達成に向けた新たな取り組みといたしまして、既設の単独浄化槽・便槽から合併浄化槽への転換を促すために、新たな助成制度が追加されており、県内市町村におかれましてもこれらの助成制度を最大限に活用して、目標達成に向けた取り組みが進むものと考えております。

貴連合会におかれましては、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、県内市町村の浄化槽の清掃や保守点検をはじめ、適正な廃棄物の処理に携わっており、行政の環境政策の重要な柱を担われておられます。

今後とも、貴連合会の御協力を賜りながら浄化槽の普及に努め、各自治体の美しく豊かな水環境を守り、次の世代に引き継いでいけるよう全力で取り組んでまいります。皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本大会のご成功と貴連合会と会員の皆様の今後益々のご発展とご活躍を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



全国環境連第15回全国大会を祝して

公益財団法人 日本環境整備教育センター

理事長 廣瀬 省

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第15回全国大会が「自然と共生～豊かな水環境へ～」をテーマに、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、優良役員・従業員表彰の栄に浴された方々に心よりお慶び申し上げます。

貴連合会会員の皆様が、全国の一般廃棄物の適正処理と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献しておられますことに対し、深く敬意を表する次第です。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業推進に対し、常日頃より格別なるご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

現在、我が国を取り巻く状況は、デフレ不況に伴う経済の危機をはじめ、社会保障と税等に関する将来の危機、外交・安全保障の危機等、様々な国難に直面しております。とりわけ、人口減少・少子高齢化に伴う地域社会存続の危機は、既に起こった未来として注目され、インフラの崩壊が顕在化してきました。一方で、「地方創生」「地方再生」を目指す動きが活発化し、下水道から浄化槽へ転換を図り、地方自治体の財政の健全化及び活性化への動きもみられるようになりました。

平成29年5月に財政制度等審議会から提出された「経済・財政再生計画の着実な実施に向けた建議」において、「汚水処理整備率が90%の水準に達し、今後は維持管理・更新が主要課題になることを踏まえると、受益と負担の関係を明確化するための環境が整う中、受益者負担の原則を徹底し、集中豪雨による浸水被害の防止等の雨水対策・水質保全等の役割を勘案しつつ、原則として使用料で必要な経費を賄うことを目指すべきである。その際、国費での支援については、こうした方向性に沿った取り組みを促進する観点から、水道事業体系・役割も参考にしつつ、徹底した重点化を検討すべきである。」とされ、今後、地方財政上の観点からは、集合処理施設の更新に際して個別処理施設への切り替えが積極的に行われるものと考えられます。

浄化槽は、人口減少・少子高齢化社会において、効率的・経済的かつ柔軟に社会のニーズに応え続けることができる分散型汚水処理施設であり、社会を支える汚水処理サービスの一柱として、長期にわたり安定的・効率的にサービスを提供するという役割が関係業界に期待されています。このようなことから貴連合会に対する期待は一層大きくなるものと思います。

当教育センターは、今日まで浄化槽に係る様々な課題を十分認識し、微力ながら浄化槽関係唯一の教育・研究機関として、浄化槽関係技術者の養成、技術向上に努めて参りましたが、今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の今後益々のご発展、ご活躍を心からご期待申し上げますとともに、ご参集の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



全国環境連第15回全国大会を祝して

一般社団法人 全国浄化槽団体連合会

会長 佐藤 佑

本日は、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第15回全国大会が盛大に開催されるにあたり心よりお祝い申し上げます。

また、常日頃より私ども全浄連に対し、格別なるご支援ご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。

さて、今世紀は「環境の世紀」、「水の世紀」といわれ、平成26年に制定された「水循環基本法」では、水循環の重要性について国民の理解と関心を深めるため8月1日を「水の日」と定めています。翌年には、その具体的な推進計画として「水循環基本計画」が閣議決定されました。この法律で謳われたのが「水の公共性」です。つまり、「水環境がもたらす恵み」です。

現在の世代の利便性を追求するだけでなく、将来の世代にも水の恵みが引き継がれていく取り組みをしていく必要があることから、これからの生活排水処理対策への取り組みについても、優れた機能と性能を有し、森里川海の循環力が生み出す恵みを支え、まちづくりに貢献するとともに財政にも優しい浄化槽を推進することが浄化槽界の使命であると考えているところです。そういう観点から、本大会のテーマである「自然との共生～豊かな水環境へ～」は、誠实的を得たものと共感する次第です。

これからは、低炭素社会、循環型社会そして自然共生社会の構築が大切だと言われています。イギリス、フランス両政府は、2040年までにガソリン車の国内販売を禁じる方針を決定し、トヨタ自動車とマツダは電気自動車の共同開発を視野に資本提携で合意するなど、電気自動車の台頭や再生可能エネルギーのコスト低減が、化石燃料の大量消費を前提とする20世紀型の社会・産業構造を変えようとしています。

浄化槽も平成22年度より低炭素社会対応型浄化槽整備推進事業に取り組み、小型浄化槽分野におけるCO₂削減に貢献しています。しかし、大型浄化槽については低炭素化が遅れているため、環境省は今年度から既設の大型浄化槽の機械設備を省エネ改修することにより、温室効果ガスの排出制限とともに長寿命化を図るため、今年度10億円の予算を計上し、全浄連を執行団体として、101人槽以上の既設大型浄化槽のCO₂排出抑制省エネ化を図る事業に取り組んでいるところです。全国で対象となる大型浄化槽は、10万3千基設置されており、一刻も早い改善が必要とされています。

結びに、今後とも貴連合会会員皆様と手を携えて浄化槽に大きく舵を切り、浄化槽での整備拡大に積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。そのため「合特法」の趣旨を踏まえた業務の転換・補償の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々はこの難局を乗り切るために、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。そして、今後も絶え間ない技術革新で、業界の未来は開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なりサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観の追求に取り組まなければならない。

20世紀に急速な人口増加と資本主義社会の競争原理による利益優先経済となった結果、自然環境に大きな負担となり、地球温暖化による豪雨、巨大台風など自然災害は国内を問わず世界各地で発生し、経済や財政に大きな影響を及ぼしている。自然災害は、環境問題と密接に関係しており、水環境への負荷をどのように減らし無くするかによって、人類の共有財産であり生命の源である水をいかに守るかが問われている。

我々は、水処理専門業者として、今日の人口減少、高齢化社会に最適でかつ地域住民に健全で持続可能な水循環を確保するため、一丸となって取り組んで行かなければならない。

本大会は「自然との共生 ～豊かな水環境へ～」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、地方創生が叫ばれる今日、国・地方及び関係業界と協働して環境・経済・社会が統合された持続可能な地域づくりをめざし、美しく豊かな自然を未来に継承するための我々の強い決意をここに表明するものである。

講演

【時間】 13時30分～15時40分 【場所】 3F芙蓉華

講演Ⅰ 13時30分～14時30分

【演題】

「廃棄物・リサイクル行政の最近の動向について」

【講師】

環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課

課長補佐 鈴木 克彦 氏

【講師プロフィール】

平成13年環境省入省後、大気生活環境室室長補佐、関東地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長、同放射能汚染対策課長、中間貯蔵・環境安全事業株式会社中間貯蔵事業部企画課長を経て、平成29年4月より現職。

講演Ⅱ 14時40分～15時40分

【演題】

「ことばと人間関係」

【講師】

元RKBアナウンサー

フリーアナウンサー 林田 スマ 氏



【講師プロフィール】

1947年福岡県福岡市出身。エッセイスト、フリーアナウンサー。
元RKB毎日放送アナウンサー。1971年、結婚のためRKBを退社。その9年間の専業主婦を経て、80年、フリーとしてアナウンサーの仕事に復帰。現在、テレビ・ラジオの番組を中心に、起業やPTAの講演なども行う。
主婦のモニター番組 f² (エフツー) 事務局代表。94年、エッセー「ことばの花束」、99年、「こころの花束」を出版。96年4月より大野城まどかぴあ女性センター所長。2004年3月、九州大学大学院人間環境学府修士課程修了。
主な担当番組「林田スマのサンデースイートショップ」「スマスマ E-KIDS」「林田スマのハートフルトーク」(以上RKBラジオ) ほか多数。

大会式典

【時間】 16時00分～17時00分 【場所】 3F芙蓉華

1. 物故者に対する黙祷
.....
2. 開会の辞
.....
3. 大会式辞
.....
4. 優良役員・従業員表彰
.....
5. 受賞者代表謝辞
.....
6. 政府に対する要望決議発表
.....
7. 大会スローガン発表
.....
8. 大会宣言
.....
9. 来賓祝辞
.....
10. 祝電披露
.....
11. 閉会の辞
.....

第15回全国大会 政府に対する要望決議

私たち一般廃棄物処理業者は、今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年にわたり、廃棄物の適正処理に取り組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を強めております。私たちは経営の安定を図りつつ、今後も引き続き廃棄物の適正処理を全うし、循環共生型社会の実現に向けて邁進することとしております。

つきましては、当業界の現状をご理解の上、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望いたします。

記

1. 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務（補償）の確保を図られたいこと。
2. 一般廃棄物処理計画に基づき一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、いたずらに過当競争を招き、適正な処理を阻害しかねない新たな業の許可を慎み、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対する指導の徹底を図られたいこと。
3. PFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の趣旨に沿い市町村において適切な対策が講じられるよう指導されたいこと。
4. 浄化槽の正常な機能が常時確保されるよう適正な維持管理に有用な法整備を含めた措置を講じられたいこと。
5. 汚水処理施設（下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター）の整備については、人口減少等を考慮した経済的で効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
6. 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換促進を国主導で推進を図られたいこと。
7. 災害に強いなどの特性を有する浄化槽に係るイノベーション（技術革新）に関し、最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用促進などに着目した研究開発を重点的に推進する措置を講じられたいこと。

以上

大会スローガン

1. 下水道整備の進捗に伴う転換業務等の獲得
1. 不法・不当な新規許可の反対並びに委託・許可制度の適正な運用
1. 浄化槽の適正な維持管理の徹底
1. イノベーション(技術革新)による事業の安定的発展
1. 循環共生型社会の実現に向けた3R活動の推進
1. 次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の実

大会宣言

私たち一般廃棄物処理業者は、廃棄物処理事業開始以来今日まで、市町村の自治事務の代行者として、適正な廃棄物処理を通じて我が国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら、下水道の整備が進む中、業界経営環境は年々厳しさの度合いを強めているのが現状であり、この難局を乗り切るには、「合特法」の趣旨を踏まえた転換業務の獲得等が緊急の課題となっていることは言うまでもないが、私たちは、自らが積極的に英知を結集し、経営基盤の安定を図っていくことが重要である。

業界の未来は、絶え間ないイノベーション（技術革新）によって開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なりサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。同時に、私たち業界は、企業の社会的責任（CSR）の視点から思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することも必要である。

21世紀は環境の世紀といわれる中で、水は国民の貴重な共有財産であり、水環境への負荷排出の未然防止や低減に努め、健全で豊かな水環境の維持向上を図り、自然との共生の下で、循環共生型社会を確立することが重要である。そして、安全で安心な水循環で地域社会の良好な生活環境を確保し、それを将来世代に継承していくことは一般廃棄物処理に携わる我々の責務である。

私たち全国環境連は、初心を忘れず、強固な団結と協調の下で、ユーザーや社会に対する責任と業の発展に貢献すべく、改めて基本理念を確認し、我々の目的、目標の達成に向けて、積極的に役割を果たしていく所存である。

本大会は、「自然との共生～豊かな水環境へ～」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、地方創生が叫ばれる今日、国・地方及び関係業界が協働して、環境・経済・社会が統合された持続可能な地域づくりによって、この国の美しい自然を未来へ継承することを目指すものである。

以上、宣言する。

平成29年10月27日

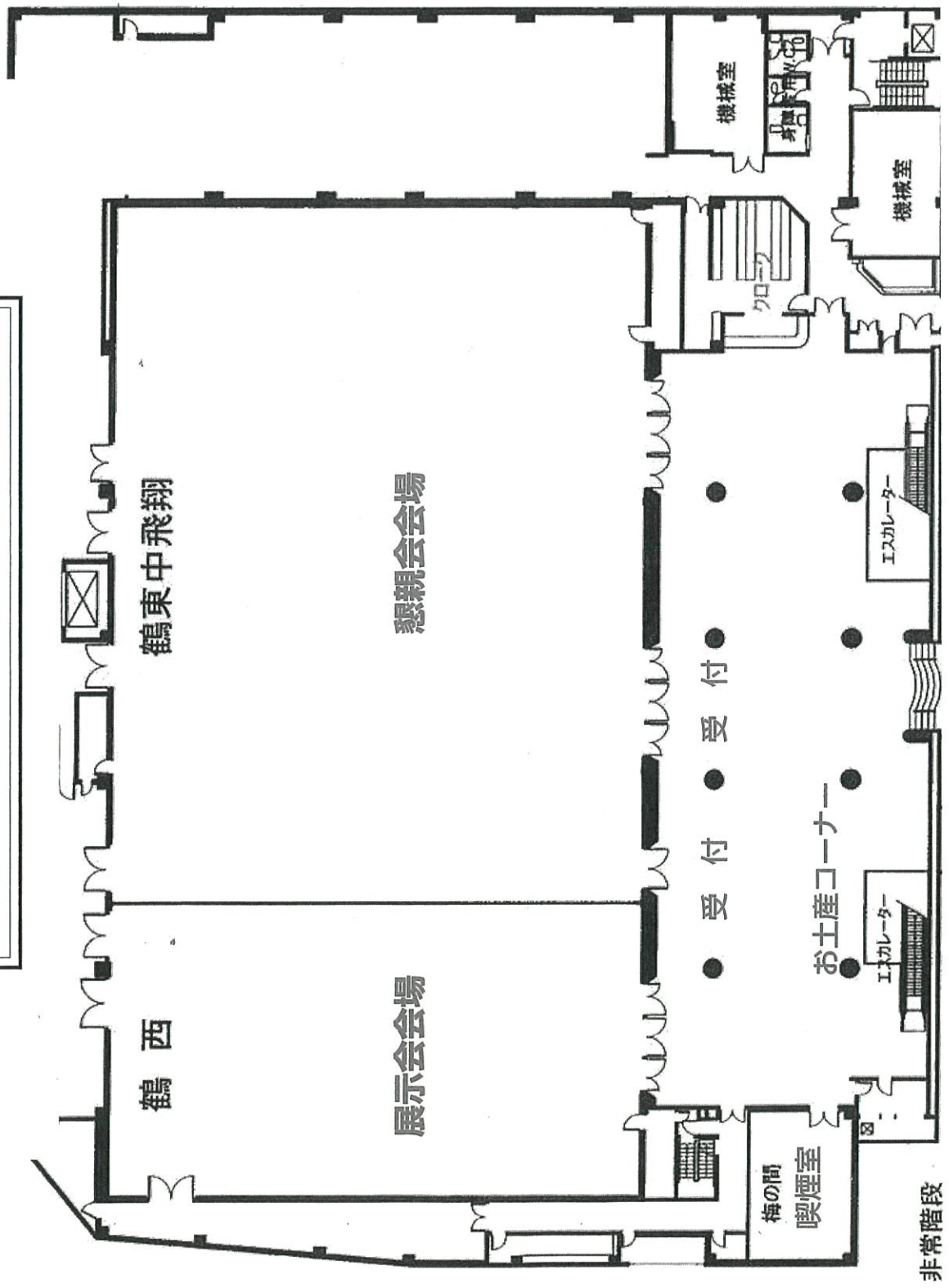
第15回全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全国大会

大会懇親会

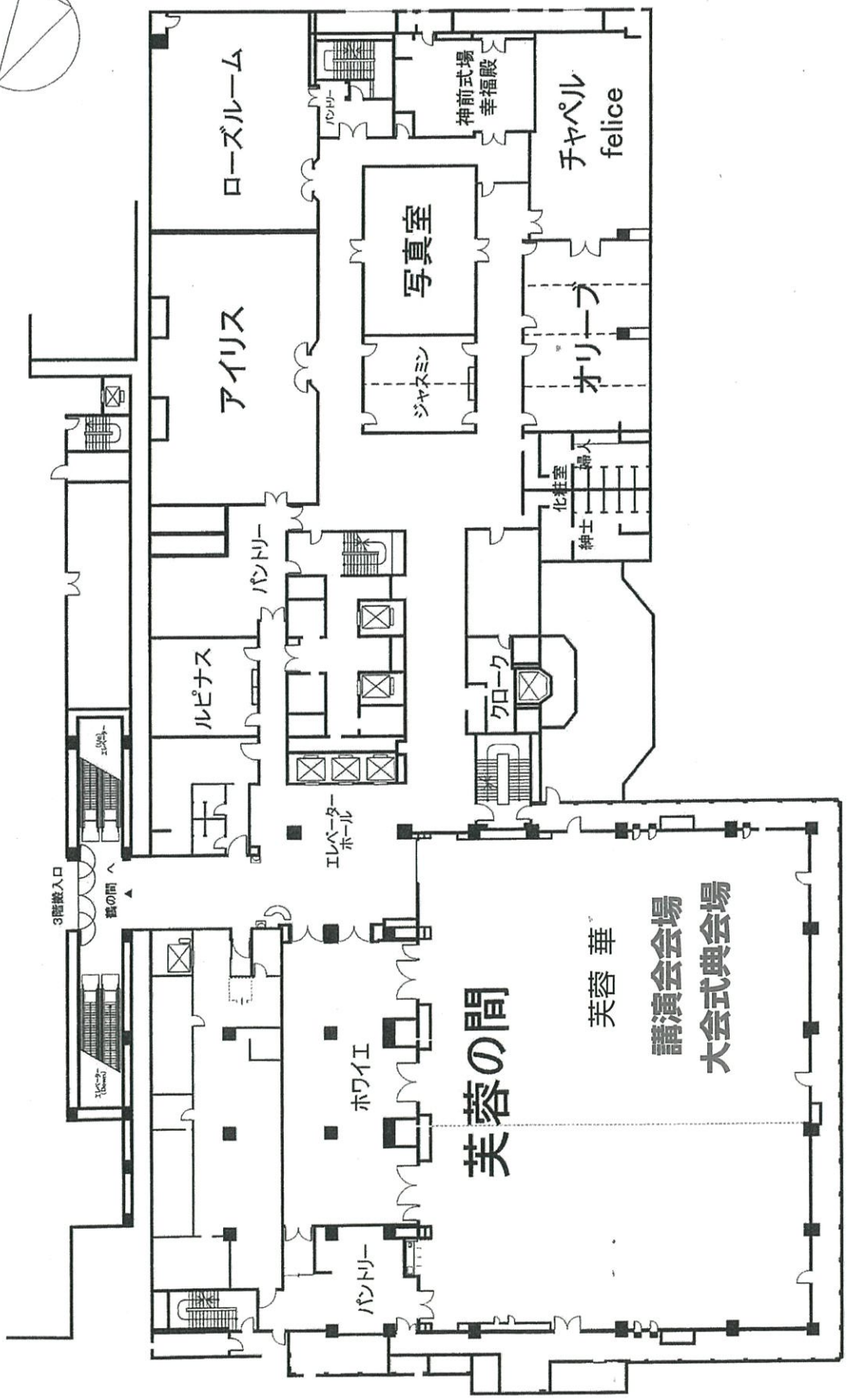
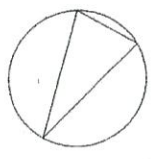
【時間】 17時30分～19時30分 【場所】 4F鶴の間

1. 開会の辞
.....
2. 主催者挨拶
.....
3. 来賓祝辞
.....
4. 来賓紹介
.....
5. 乾杯
.....
6. 次回開催担当県挨拶
.....
7. 閉会の辞
.....

4階フロア案内図

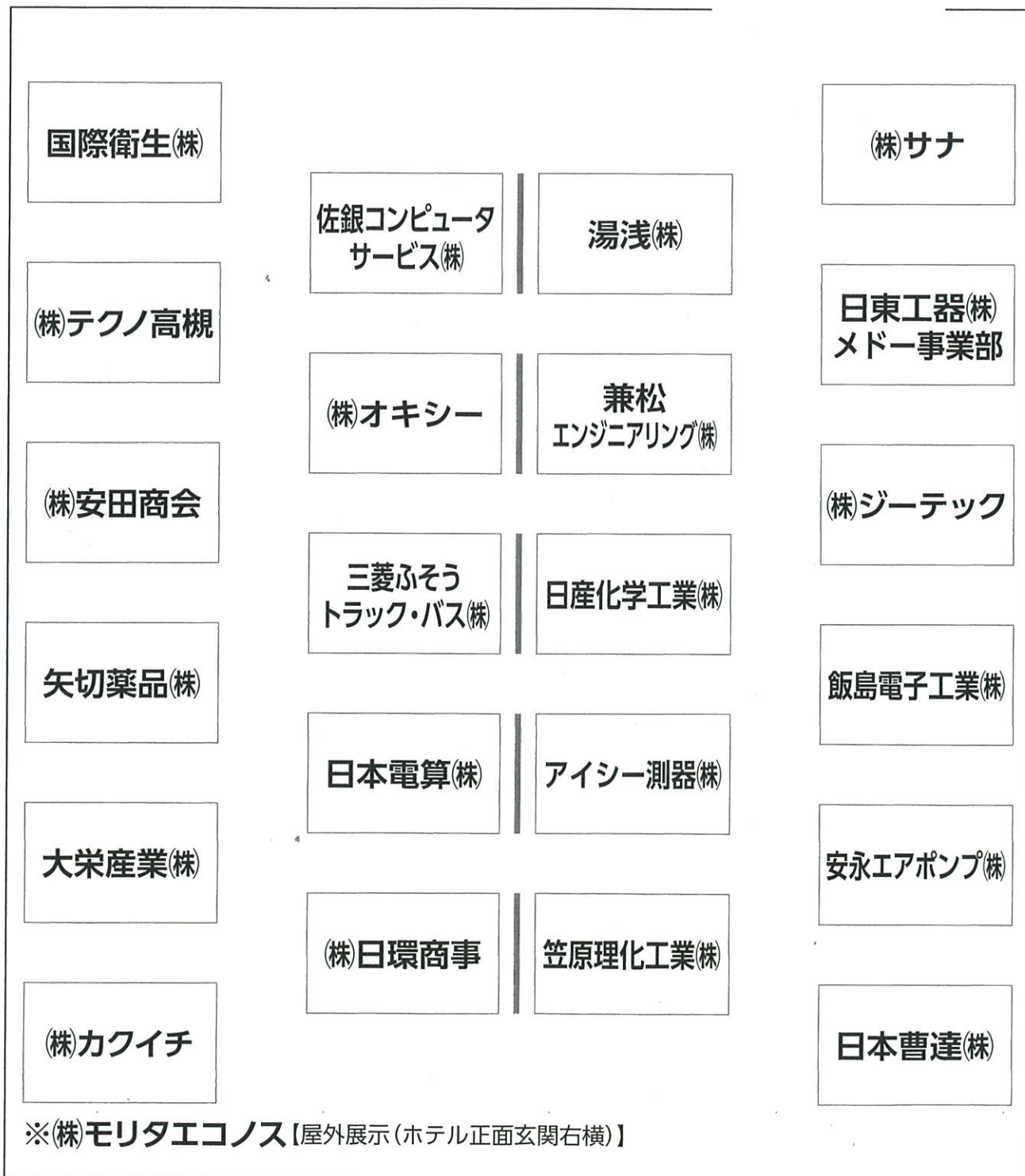


3階フロア案内図



展示会場案内図

鶴の間・西



【カタログ配布のみ】 フジクリーン工業(株)・いすゞ自動車九州(株)